

金賞

考え方・教え方一つで変わる自主保全

マツダ株式会社 本社工場

大山 勝行

私は、自動車メーカーに勤務しています。仕事はロボットや治具を使用して車体組み立てを行うラインで業務を行っています。設備を扱う職場であり、設備を維持管理していく為に自主保全活動が行われています。その中で私の役割としては、リーダーの相談役として活動をサポートしながら次期リーダーの育成や職場メンバー全員の知識・技能を高めながら自主保全活動を進めています。しかし、職場は 21 歳から 64 歳までのメンバーで構成されており、その内 15 名中 9 名が入社して 10 年未満のメンバーとなっています。

若手のメンバーの中には自主保全活動の基本ステップも知らない、不具合・発生源・困難箇所・疑問点の白エフ活用すらわからない、看板なんて見向きもしないメンバーや自主保全活動ってとりあえず清掃しておけばいいですよね？と考え方のメンバーがおり、「自分達の設備は自分達で守る」という意味、また何故自主保全をしなければならないのかをどのように教えていくか？みんな同じベクトルで活動を進めていくためにはどうすべきか？をリーダーと共に悩み、教育資料を基に一から全員で実施していく事にしました。

自主保全のステップの進め方や、白エフの活用方法、看板の意味などは教育資料を基に一から全員で実施していき、現場で実践を行いました。ウエス等の清掃道具を準備し設備に触れながら、「清掃は点検なり」を実践していきました。メンバーと設備を触りながら私の成功事例や失敗事例を話し、設備に興味を持ってもらえる様な話題を出して活動を進めていきました。設備に触れる事、そして経験を話しながら進める事で、メンバーからも設備に対する疑問点が少しずつ出てくるようになりました。私も以前、自主保全活動をメンバーとして進めていく中で出てきた疑問点に対して、先輩と一緒に勉強しワンポイントレッスンを作成していました。そのワンポイントレッスンをメンバーで共有した経験があります。同じように新しいメンバーの質問にもすぐに答えず、一緒に資料を基に勉強しワンポイントレッスンを作成しました。人から教えられた知識

ではなく、自分で調べた知識であり、本人がすごく理解して設備に興味を持ってくれているのがわかりました。教えられるのではなく、自分で調べるという自分発の行動が身になる事を再認識することができました。

このようにメンバーと共に活動を進めていく中で、最初は「清掃は清掃なり」であった活動が、清掃しながら設備の不具合を発見する、「清掃は点検なり」の活動に変わっていった事を実感でき、また活動開始時は、清掃点検が「やりにくい」と言うだけだったメンバーが活動を進めていくと「こうすればやりやすくなる」と改善の目つきも芽生えてきました。実際にメンバーと改善を行い、失敗を繰り返し、成功に辿りつくると改善技能向上や他の改善もどんどん進むようになりました。最初は活動の進め方に悩んだ私やリーダーもメンバーのレベルアップを感じると共に、壁にぶつかりながらもメンバーと乗り越えていく事で、改善に挑戦する事、教える事、教わる事、また自分から学ぶ事を楽しむ事が出来るようになりました。私もメンバーに教える事で、教える事の難しさを勉強する事ができ、共に学び、共に成長する事の楽しさを感じています。そして、「自分達の設備は自分たちで守る」ことをメンバーと共に実践し、苦勞しながら自主保全活動を進めていっています。この自主保全活動を通して、私は教えられる立場から教える立場に変わり、メンバーと共に活動を進める事で、メンバーも私も成長し、その成長が設備を維持、管理していく力になり、設備を維持管理していく中で人財を育成していく活動だと感じています。私はこれからもメンバーと共に勉強し、改善を行ない、成長していく事を楽しみながら自主保全活動を進めていきたいと思っています。